

2	4/16	授業内容: 抽象絵画の基礎理解
<p>抽象絵画はみていて、いつも自分の好きでしかその色がいかにいい、どこから出てきて、描いたものなのか、具体的に描かれているものよりその色か何かのリゾーというけれど、わからないうちとでも魅力的である。</p> <p>これから授業を受けることにより、抽象絵画に対する理解度として、自身の思考能力の向上を目指した。</p>		

3	4/23	授業内容: キュビズムの抽象化
<p>空間は、中絶して、それた箱のように平である。どう解説したVTRの言葉が残っている。しかし、どこにたかに描いたものが残っていて、わかる。意味内容から形態へと関心は向けることにより、み手が能動的に思考を働かせ、これは一体何ぞあるのかと考えた。開きに美しさをおもしろさと共にだす。最終的には何れ、なんだか、わからないうちのこのことなのかと思えるようになってきた。</p>		

4	5/7	授業内容: カンディンスキーの抽象化
<p>キュビズムの後、開き、見たものおもしろさを表現しようとしていたことからは、感覚的なものを絵画として表現しようとして始める。目に見えないもの、主観的な心の中からは生まれるものを伝えられ、その絵画、抽象である。いい感じのものがあることが作品にあわせている。彼の絵画を三層解するたぐいにするのではなく、彼の思想を思うことにより、みることがたのしむるのではなから、と思う。</p>		

5	5/14	授業内容: マティス、モンドリアン
<p>色に対する強い感情を感じる。それは単に色々々を描くというだけではなく(前に出る、後ろに感じるなど、色の進退で平面的にしか立体感を感じさせないわけではなく)、色の響き合いにまよませ置き、そのものの対象の印象を強くあわせておこし、み手にも思える。一見するととっさからみえた画面が、美しい色の固りの固りにみえてくる。</p>		

6	5/21	授業内容: アンフォルメル材料・行為性
<p>進開き、あたり内面性を出そうと描いてきたものをまたちがいに、その時に行う行為、身体を動かすことにより、生まれるものを美しくしていく。それが、落書き(そのおもしろい無意味に描くように)ものである。体から反応して描いたようなもの。しかしおもしろい、たぐいで描くものはダイナミックではなく、あき画面こそが、たぐいを感じる。</p>		

7	5/28	授業内容: 抽象表現主義-1
<p>不定開きのものは開き、直線を描くときに強い力を感じてくる。収まりを認識して制作をしたわけではなかった。その作品にもまるごとどこにあるか開きに収まる、というように感じるとは、あつた。色から受ける美しさも、生かすように、みかきかきしきかきせるところまで採用された。ダイナミックに、インテンシブにしていたとしても、まよと気づいていたのであろうと思つた。</p>		

2	4/16	授業内容: 抽象絵画の基礎理解
<p>今までには抽象絵画、また抽象絵画について考えることを「あからずいから」避けていましたが、抽象表現にも材料・手法を用いた様々な手法、また抽象化における仕組みがあることが、おもしろかったです。これからはこういったものに作品をあてはめて鑑賞したり制作したりしていきたいと思っております。津上さんの洗練された作品を美しいと感じることができ、抽象に少し親近感が持てました。</p>		

3	4/23	授業内容: キュビズムの抽象化
<p>今回の講義を受けて、一口にキュビズムと言っても、その中での発展や破壊があるなど様々な面・手法があることがわかり、とても興味深かったです。周知のピカソやセザンヌの絵など、前例から学んだことが、キュビズムにも活かされているという流れがあり、キュビズムには異なる異文化が「薄れた」ように思えます。私も大膽に制作していくことで、自分の関心をモチーフの形態に絞って行っている中で、その面で大感動を感じることもできました。</p>		

4	5/9	授業内容: カンディンスキーの抽象化
<p>正確かにカンディンスキーの絵を見比べると、物語性やメッセー지를伝えるという点も、「あー」という感覚が得られるのだと講義からわかってきました。私も音楽を聴いていざ行動する感覚、ものを見て感じるということも大切にしています。そういったものをいち早く表現したというのは、当時からすると本当に革新的だったのだと改めて思いました。感覚を言語化して制作することの大切さを学ぶことができました。</p>		

5	5/14	授業内容: マティス、モンドリアン
<p>当時の人々にとっては、マティスの「平面的な色」や「色彩」のある作品は衝撃的だったのだと改めてわかりました。モンドリアンの作品においても、どの「過程」を経てこの「造形性」に至ったのかが「わからず」どう思っているのかと「思っている」ように思いました。もう少し「感情的」に、形のおもしろさや色の配置などに注目してみようと考えました。見かたの角度が変わり、心が軽くなった気がしました。</p>		

6	5/21	授業内容: アンフォルメル材料・行為性
<p>アンフォルメルという言葉を知り、どういったものかや「等」ばかりでなく「劣」も良かっただけです。作品を作る工程及び行為を大切にしている点で自分の制作と重なっていると感じました。絵具を色をつけるためのものではなく、色以外の材料として進んでいる作家・作品を多く見られ楽しかったです。物質は戦後の状況が「生み出した」ものかもしれませんが、作家たちが「関心を持ち楽しく作っているのが」よくわかります。</p>		

7	5/28	授業内容: 抽象表現主義 - 1
<p>絵画の中心がヨーロッパからアメリカに移った経緯や抽象表現主義の作品の特徴、特徴が「わか」っていき、おもしろいと感じました。私の制作とは真逆で、「自由」開放感がある作品が見られ楽しかったです。ピカソ以外の作家は知らなかったのですが、フランシス・ベーコンやモーリス・ルイスの作風が「良い」と感じました。実験的ではあるものの、画面全体の構造が「わか」り、よく考えられた作品にも見える気がします。</p>		



2	4/16	授業内容: 抽象絵画の基礎理解
<p>抽象化絵画と非対象絵画は別物                  ということをはじめて知ってうれしかったです。                  抽象絵画の見方や楽しみ方をこの授業で                  少しづつ理解していきたいと思います。</p>		

3	4/23	授業内容: キュビズムの抽象化
<p>キュビズムが生まれた時代背景や発展の                  しかたをもとにわかりやすく説明してくれて                  良かったです。ピカソやブラスクの形態への                  強い興味が感じられておもしろいと思っ                  ました。</p>		

4	5/7	授業内容: カンディンスキーの抽象化
<p>カンディンスキーの抽象はキュビズムよりも                  難しいなと思いました。                  キュビズムは元々あるものを再構成する                  という考え方があったけれど、カンディンスキーの                  抽象はもっと精神的で感覚的な                  表現だ、ということがなんとなく                  わかりました。</p>		

5	5/14	授業内容: マティス、モンドリアン
<p>「何が描かれているか、よりも色や形に重点を                  おいた絵も王様だし、おもしろいな」と思える                  絵にハマりました。マティスの絵は教科書などで                  見たことがあったけれど、よくわからなくて、何が                  なんだかと描かれたんだろうかと思っていました。今回                  改めて見て、意図を知って、おもしろいと思えたので                  良かったです。</p>		

6	5/21	授業内容: アンフォルメル材料・行為性
<p>「ルッキング」やマナーは映像をみても書道のつ                  いたな、と思いました。身体の動きに合わせて                  筆を画面に走らせる、という制作方法は                  気持ちいいかも知れないな、と思いました。                  スーラジの黒い作品は、実物を見てみたい                  な、と思いました。黒の重さを感じて使っている                  感じが、良かったです。</p>		

7	5/28	授業内容: 抽象表現主義-1
<p>ポロック → フランク・セラ → リスの「アボリジナル」                  おもしろいし、絵の具の工夫や「アボリジナル」が良いなと                  思いました。色の重なりやにじみのくみ合わせを                  楽しむ、というのもおもしろいし、色々な発見がある                  んだなと思いました。また、日本の美術の特徴                  である「余白」を参考にした作品も何点かあって、少し                  おもしろかったです。</p>		

2 4/16 授業内容: 抽象絵画の基礎理解

抽象画と具象画についてのちがいをただでなく、  
抽象画の中でのちがいについて少し理解できました。  
抽象画は見るのも描くのも苦手だったので、  
根本的な事を学ぶことにより、見方も変化すると  
思いました。

3 4/23 授業内容: キュビズムの抽象化

抽象化する時に、画家が相手に伝えたいことだ  
とか、抽象画が生まれたきっかけが、大きく時代の  
流れに関わっていることがわかりました。世界中  
大変化、改革にともなって美術の世界も少しずつ成長、  
変化が起るのであり、全く何も無いところから大きく  
変わっていくということはないのですわ。

4 5/7 授業内容: カンディンスキーの抽象化

抽象化というのはその人の過去や生涯、周りにいた  
人たちのことを知らないと、その画家が何を描きたか  
たのかわかることはできないと、抽象画は限りなく  
音楽に近いリズム感や空気があることがわかりました。  
目に見えないものを描くことは見えているものを描くこと  
に比べて簡単そうに見えてとても難易度が高いと思っ  
ました。

5 5/14 授業内容: マティス、モンドリアン

抽象画家の人達は初めは偶象化から入っており、  
それが次第に壊されていき表面的であったり  
省略的なものになっていることからいかに対象物の  
魅力を引き抜いてそこだけを強調するかが重要な  
点だと思いました。絵というのは写真のように切り取る  
だけだけでなく、自分が何を一番伝えたいかを表現するものだ  
と、抽象絵画を見ていると気付かされます。

6 5/21 授業内容: アンフォルメル材料・行為性

何が描かれているのかさっぱり分からず特に美しい  
色が構成されているわけでもないのに、その時の  
時代背景の影響で評価されることもあるんだなと  
思いました。その他にも引かき傷や立体で魅せる  
表現やライブペインティングの手法も時代の背景によつて  
鬼力が増したりまたは減ったりするのだと思いました。

7 5/28 授業内容: 抽象表現主義-1

抽象表現主義の有名な画家同士で触発されて  
南花したり何かヒントを得て作風が完成して  
いたように、影響を受けるというのは悪いこと  
だけではないのだと思いました。特に今回の水彩的  
な美術表現は自分もカッシュを使うのが大好きなので  
とても身近に感じました。



2	4/16	授業内容: 抽象絵画の基礎理解
<p>抽象とは、方法は大きく分けるつあることがわかりましたが、構成が難しいと感じました。ただ分かりやすく、具体的に描くのではなく、単純化し抜き出して描くということが、見る人により其感を得られることもあると思いました。非対象絵画という言葉は初めて聞き、その絵画自体が新しい物という見方で、他の絵も見てみたいです。</p>		

3	4/23	授業内容: キュビズムの抽象化
<p>キュビズムは生まれた時からあたり前であって、よく分からなかったのですが、当時の社会の機械化などに合わせて生み出されたものだ"と分かった。彫刻やセザンヌの作品、ピクトグラムなど、意外なものからも影響され、キュビズムが描かれていると知った。実験的に絵画が抽象化してゆくことにより、より自由になり、様々な表現が時代に合せて生まれていくのが興味深いと感じた。</p>		

4	5/7	授業内容: カンディンスキーの抽象化
<p>カンディンスキーの抽象化を探究した絵を見て、最初はよく分からなかったが、音楽的な、視覚で見て映る色より、その感覚を表現しようということが分かった。感覚は人それぞれなので、「積みかさ」のように見た物を描くよりも直接的にその画家の感情が伝わると思った。線と塗り面をずらしたりと、物にとらわれず、抽象化することかとても難しいことだ"と改めて感じた。</p>		

5	5/14	授業内容: マティス、モンドリアン
<p>マティスの色彩での描き方が見ていて楽しいと思った。影の色が赤や緑に置き換えているのはよく分かった。デフォルメを何度も描き、出来上がったものは心地良いもの"と思った。作品を描く喜びから絵をつくるという目的を持つということも考えたいです。作家について読んだり映像で探ると、その作家の絵の見方がわかりやすいです。</p>		

6	5/21	授業内容: アンフォルメル材料・行為性
<p>様々な作家の行為やタッチなど工夫した表現を見て、真似て描くのが難しいと感じました。行為や気持ち作品になる場合、経験や意識も作品に影響が出ると思うので、やり方を真似てさら"と描いても良いものを作るのが難しいのだ"と思いました。大きい作品、動きのある作品を描いている様子から、こ"い"な"と思いました。</p>		

7	5/28	授業内容: 抽象表現主義-1
<p>デューニングの作品が、荒く描かれているのにとてもきれいだ"と聞き、本物が見てみたいと思いました。VTRで見ると、筆の動きが見れ思っていたより勢いがなく、適当ではなくイメージを丁寧に形にしているのだ"と思いました。ルイスの作品が個人的にとても気に入る、色の使い方がやわらかくて、心地良いと感じました。今回見た作品でも特に巨大な作品がほとんどで、大きさがあ"る"方が見る人に印象を残し易いのかと思いました。また、実物を見るのでは、絵の具の物質感なども見ることができて、違った印象になるのかと思います。</p>		

2 4/16 授業内容: 抽象絵画の基礎理解

抽象は何をどう見ればいいんだろうという風に思っていました。ですが、何を描いてあるのかと考えると抽象画を見てはいけない、モノとして見るのだ、ということを知って少し謎かけつけた気分になりました。国展出品者と津上みゆきさんの作品比較はとても分かりやすかったです。

3 4/23 授業内容: キュビズムの抽象化

今まで絵画を観賞する際、その作家の時代背景を調べたりすることがありませんでした。ですので、キュビズムというものが19世紀から20世紀において機械時代に対するピカソやブ拉克などの作家の挑戦から生まれてきたものだと知って、作品の時代背景を知る事の大切さを知るとともに、おもしろく思いました。

4 5/7 授業内容: カンディンスキーの抽象化

初めカンディンスキーの絵を見たとき、何を描いているんだろうという視点から見てしまいました。いつもそのような視点から見てしまいくせみたいなのかできてしまっているように感じます。心で感じて絵を見るというのは簡単なようで、意外と難しいものだなと思いました。もっと抽象絵画に触れて、絵を心で感じられるようにしていくことが必要だと思いました。

5 5/14 授業内容: マティス、モンドリアン

一見してマティスの絵は何でこんなにごちゃごちゃしているんだろうと思ってしまう。しかしマティスの絵は平面的な意識で描かれており、白黒に置き換えたときほとんど違和感がない。ほぼ計算されて配色されているということを知ってマティスの絵ってこんなに考えられて作られていたんだなと見方が大きく変わりました。

6 5/21 授業内容: アンフォルメル材料・行為性

モンドリアンの作品の変遷の過程の動画は作者の思考の流れがよく分かり、とてもおもしろかったです。アンフォルメルの画家たちの描く絵の画面は力強くてインパクトがあり圧巻されます。アルシングの作品はいろいろなタッチのバリエーションがあり、タッチだけでもこんなに表現をたくましくできると分かりました。

7 5/28 授業内容: 抽象表現主義-1

フランケンサールとルイスの絵はとても印象に残りました。フランケンサールの絵はとてもシンプルで、あるけれど画面大きく占めるそれぞれの色が魚肌か心にとまります。ルイスの作品はまるでカラーフィルムが重なっているようで、本当に絵の具なのかと少し驚きました。



学生番号 3217 氏名 白取 泉美

2 4/16 授業内容： 抽象絵画の基礎理解

..... 画廊で出された作品と津上みゆきさんの作品を見ると、やはり作風とリノコとを  
 抜きにしても後者の方がスッと頭に入ってくる。「抽象」といって今まで私が考えて  
 いたものは、どうやら抽象化の方がまだまともなことを今回の授業で知った。  
 そのあり方から最終的に鑑賞者の感じるものに違いはあれど、心地よ  
 いかどうか、直接的に心に訴えかける力をもったか、がとても重要であると感じた。  
 まずは様々な作品に触れることで、抽象表現についての考えを深めていきたい。

3 4/23 授業内容： キュビズムの抽象化

..... 物を様々な角度から見て平面上で再構成する技法を使う  
 キュビズムは、その簡略化故に一見分かりづらい点もあるためセシス  
 の多視点的視覚の表現法が更に物を切り取り連結した分析的  
 モビールのあたりにもなる。昔に比べ観客が減ったという事象には少し驚いた。  
 実験的すぎる内容に、それでも文字を入れただけで描かれた  
 ものを連想しやすくしたり、パピエコシを使用したりの結果シニアル  
 ながら見やすく客に近づいたその発想には感動した。キュビズムの流れを  
 改めて勉強することでかまけてよかったと思う。

4 5/7 授業内容： カンディンスキーの抽象化

..... 課題。キュビズム 圓 自画像 に関して、私の描いたものは抽象に  
 見えず、曲線が多すぎてや色彩セシスの問題が大きいのと思うので、  
 もっとキュビズムの作品に触れ理解を深めていきたいと思う。カンディンスキ  
 ーの作品は何を表現しているのか難しかったのだが、精神的ものを表現し  
 てくること、毎日体験に似たエピソードから始まったこと等を学ぶことが  
 できたと思う。ミニマムのことはおたく知らず、やはりそうだった  
 存在がいることで制作活動に大きく影響するのだらうと感じた。

5 5/14 授業内容： マティス、モンドリアン

..... マティスの作品は形的にはシンプルで子供が描いたように見えたが、  
 今まであまり理解できなかったのだが、単純化の中で表される動きや色  
 彩の強さ、裸婦の作品にして何層もいらノスを調節した中での変化を見  
 ても、デフォルメの難しさを考えた。ピカソとマティスのつながりは今  
 日のビデオで初めて知り、互いを意識することで制作を高め  
 合っている様子が素晴らしいと感じた。どちらかというと内面的な  
 表現をよく見てきたのだが、色彩や造形そのものの美しさについて改めて学

6 5/21 授業内容： アンフォルメル材料・行為性

..... モンドリアンの作品について、高校時代はなぜあれほどまでに  
 簡略化された表現が尚ほ評価をうけているのかよく分かっていな  
 かった。しかしその精神性、平行・垂直の感覚の詩について習った後  
 で見、ビデオも鑑賞してみると、前は違う風を感じ、今後初期の作品が  
 改めて見てみたいと思った。デフォルメの作品については、後半の動的な表現  
 が個人的に好きで、感覚を重要視したものの、素材を工夫したもの等描きか  
 思考の面でも楽しく思う。マチエールの重要性を改めてくも興味深いと感じた。

7 5/28 授業内容： 抽象表現主義 - 1

..... アクション・ペインティングに関して、当時のアメリカ美術があまり注目されて  
 いなかったこと、ポロックの絵画も切欠となり独自の発展を遂げた  
 所を今日の授業で学ぶことができてとても勉強になった。  
 カン・アールト・パティンゴについては、レイスの作品の、一見暗  
 の色見を促す、たが、よく見ると粗かな工夫が感じられる  
 点にとっても驚かれる。アリエの詩がまた溢れでて興味を持った。色  
 調、細かな点にも注意しうるさくない工夫について今後学ばたい。

2 4/16 授業内容: 抽象絵画の基礎理解

今回の授業で、なぜ1年生の基礎の時間に絵の具で遊ぶあの実技の時間があったのか、もかたよな気がします。具体ばかりを描きなれている1年生にとって、理論ではなく直接体感することに意義があったのだと思います。ストーリーや色を求めたのではなく、まず感情や思考のまに手を動かすことを学びました。

3 4/23 授業内容: キュビズムの抽象化

前回の授業で、抽象絵画は色を追求したものではないとお話をしましたが、キュビズムの経過を見ていくことよて、それが理解できたと思います。ピカソの制作過程で食卓で並んでいく人物が、食卓に並べられるモチーフに変化していったものを見て、人が物かとも関係もない、意味もない、ただ形態の変化を画面の上で楽しんでいたのだなと思つた。抽象絵画につけられる題名は、意味を持たないのに元ネタを示唆するのはおもしろいものだなと思いました。

4 5/7 授業内容: カンディンスキーの抽象化

前回のキュビズムは、目に見るものをとんで実験的に抽象化していく制作の流木を見ましたが、今回のカンディンスキーの抽象は、作者の感覚や感動を色をつかって表現した、ということが理解できました。抽象画をいかに楽しむか、なにかをいかに楽しむか、同じように見えてしまうのですが、考え方や目的は全然違うものなため、ということに改めて感じました。カンディンスキーの恋人シュナーの話を知り、人生における伴侶というものは、巨大な感動を産み、偉業を産むものなのだなと思いました。

5 5/14 授業内容: マティス、モンドリアン

マティスの絵の強烈な画面は中学生くらいの時から印象に残っていたので、今回解説も聞いてとても嬉しいです。影を色面で大胆に描く描きかたの作品を制作するために重なる試作研究の姿勢などは、見習うべきだと思つた。画面自体にイメージは無い、ということからピカソのキュビズムを思い出しましたが、ライバルだったとは！認め合い、意識する相手は重要ななと思いました。

6 5/21 授業内容: アンフォルメル材料・行為性

アンフォルメルの5人の作家、作品を見ましたが、とくに後半の3人、ピルツング、スーラージュ、マチューは、スタイリッシュでかっこいいなと感じました。作品のつくり方を見て、もはやデジタルなカラーリングは必要ないのではと感じてしまいましたが、ピルツングはデジタルから学んでいる、ということが書いてあって少し安心しました。以前父と書道の展覧会を見たことがあるので、前衛書道を見て、「ピカソだな」と言っていたことを思い出しました。マチューはとてもロマンティックだと思いました。

7 5/28 授業内容: 抽象表現主義-1

現代アートといえばアメリカ、ニューヨーク、そして具体ではない、とおからない絵、という印象ですが、やっぱりそれがなぜなのか、もかたよな気がします。キュビズムやアンフォルメルの生いたちで聞いてきたように、芸術と当時の社会情勢は切っても切りはなせない関係にある、ということを改めて感じました。ホイットニー美術館のカーネーが、アメリカ人を援助している映像を見て、その財力と情熱が、素敵だと思いました。



2 4/16 授業内容: 抽象絵画の基礎理解

抽象絵画について説明としては足りない場面に出会ってしまつた時の不安を持っていた。講義の内容を聞き、また「具体」の反対の意味を持つという感覚が「抜け切れず」突壁に理解したとは取っ掛かしながら「言い難いかな」以前より、と抽象について理解することが出来た感じがした。

3 4/23 授業内容: キュビズムの抽象化

キュビズムの始りやその後を社会背景等もろまえて見ることによって「アイデア」の元々考え方を理解することができた。今まで「絵を見て風景画等との違いに驚き見ていたものであったが、想像以上に考え抜かれた結果描かれたものであることに、驚くというより納得というように思った。

4 5/7 授業内容: カンディンスキーの抽象化

カンディンスキーの絵を初めて見た時は色の組み合わせがどう見ているか分からないという感情に、果敢として自分の絵の具を自分で塗っているのかと悩んだ。講義の中で「何を描きたか、たのかを知らなかった、悩まなくともこの絵が良ければいい」と教へられた。最初の頃と後の絵の変化に「第三者として聞いて理解することは可能だが、驚く程の変化だと感じる。

5 5/14 授業内容: マティス、モンドリアン

線の色合いと形が良いところを切り取られているように、ランダムな画面の中に呼びかけを感じる。少なめの動きの中に深みを感じるのは、角度も考察された過程がもたらす結果なのだろうと思う。モンドリアンの絵は初めて見た時が「大分時間がながった」と感じる。直線と色があればモンドリアンの絵のようだと感じる。強く印象に残っている。マティスの切り絵作品についても興味を持って、今度じっくりと見たいと思う。

6 5/21 授業内容: アンフォルメル材料・行為性

水平と直線を描かれている絵や、持ち離すとクラッシュする要素での構成は、とても興味を覚えた。アンフォルメルの作品を見た中で、その変化には非常に驚いた。社会状況の影響の大きさを改めて感じることができた。スーラージュの作品が黒と白、光の反射の様子が美しく印象的だった。動作を作品の表現が中面的に作家ごとに違つた魅力があった。文章が難です。

7 5/28 授業内容: 抽象表現主義-1

水彩の色合いが作家によって異なり、それぞれの特徴を理解できた。色を重ねる時の止め時は大事なのだと改めて感じた。複数の色が使われている絵が多いのに対し、非常にきれいな色が保たれていることに驚きを感じた。ホロウの絵は動きのある画面であり印象が強く、色も多いのかと思いついていた。しかし、よく見るとおさえられた色使いであり、それが味、まとまりになっているのかと改めて考えた。

2 4/16 授業内容: 抽象絵画の基礎理解  
 私は抽象に関して全く詳しくないので、抽象なんてわからないよ」という不安な気持ちもありました。しかし、よく考えてみるとピカソの作品等は「具体的な人間」というものの美しい側面を抽きだしていると感じました。次の週で、ピカソについて学ぶので、もっと抽象と仲良くなれるようになりたいです。

3 4/23 授業内容: キュビズムの抽象化  
 どういう時代の中で描いたものなのか裏づけがないと理解しづらいことがあるという話がありましたが、私はルネサンスの意味を知った時、画家達の喜びの声を作品から感じたことがあるので、もっと時代というものにも着目して作品を鑑賞したいなと感じました。

4 5/7 授業内容: カンディンスキーの抽象化  
 私自身も音楽をきいて空をみて、強く感じる何かがあります。でも写真でとるのも絵で描くのも何か違うと思っていました。シャガールもはじめ興味はなかったのですが、展覧会を見た時に心に感じるものがありました。カンディンスキーの作品を実際に見てみたいです。感覚を伝えられるのは具象だけではないし、もしかすると抽象の方が?と思いました。

5 5/14 授業内容: マティス、モンドリアン  
 マティスの色というのは少し共感するものがある。私が油彩をかきはじめてばかりで、ぬり方がわからなかった時、黒のかわりに緑や赤をおいたことがある。それはマティスと比べることができる作品ではないが、美術への初心や楽しさを感じる。モンドリアンに関しては構図が面白く見ていて飽きない所がある。

6 5/21 授業内容: アンフォルメル材料・行為性  
 ほうきでかくのが面白そうだと思った。作品だけでなく、かき方にユーモアがあり、みよくを感じた。国井誠海の作品が文字だということに全く気がつかなかったのでもちやってみたいと思った。モンドリアンの作品はていねいすぎて作品は好きだけど人として合わないだろうと思った。

7 5/27 授業内容: 抽象表現主義-1  
 ポロックの作品は初めは適当にかいているように見えたが、何枚か見ていく中で線の動きがとて綺麗だと気がついた。私はルイスの作品が好きで、色の重なりや隅の残し方というのはぐっとくるものがある。ダイニングルームでいそいそと製作していた話を聞いて、なんてかわいいのだろうと思った。

家さん  
 だと感じた。

漢字の書き出しが必要ですね。



2 4/16 授業内容: 抽象絵画の基礎理解

今まで抽象絵画は あいまいなものといったイメージが強く残っていました。しかし、具象から余分なところを取りのぞいた絵画が抽象絵画と聞いて、抽象について考え易くなりました。これから抽象絵画を描く前段階で、そのことを聞いて良かったです。手元に凝りすぎない絵画を思い描きながら制作していきたいです。

3 4/23 授業内容: キュビズムの抽象化

キュビズムはなぜ生まれたのか疑問を持っていました。それは余分なものを全て取り除いた本質そのままの姿でいいから、キュビズムを極めていたピカソとブライクの作品にはどことなく雰囲気を持ち合わせているものの、鑑賞者に何を描いているのかわからない、意図が読み取れないことが多くありました。どこまで原形をとりとめさせるというところに抽象の難しさを感じました。

4 5/7 授業内容: カンディンスキーの抽象化

カンディンスキーの経歴で幼い頃から絵を描き続けていたというところに驚きました。しかし、年を重ねていくにつれて描きたい感覚というものが鮮明になり、画面として見やすくはしていました。意味より感覚を重視する姿勢は芸術家らしいと思うから、絵で描いていると思いました。

5 5/14 授業内容: マティス、モンドリアン

マティスの絵画は見た人を楽しくさせるような色が生きた作品でした。描いている本人も楽しみながら制作し、夕っ干が生き生きしていました。しかし、今まで絵を見てきた中でも、独特な色づかいをしていて、真似するのは難しい作風だと感じました。ピカソと比べあっている姿が、とても印象的です。

6 5/21 授業内容: アンフォルメル材料・行為性

アンフォルメルを見てきましたか。正直なところ、今まであまり触れてこなかった分野なので、どの鑑賞方がいいのか、わからなかったです。考えるより先に筆を動かしているような印象です。アクションペインティングということで、何回も描きなおせることのできる素材が、あると思いました。何回も思い作ることができるのは、興味かたと思います。

7 5/28 授業内容: 抽象表現主義 - 1

それぞれ作家の描写方法が違ってとても面白かったです。絵の具を流し込む方法も新鮮でしたが、モリスルイスがやっていたと思われている布にハズを貼らずに絵を描くことが驚きました。どの画家も大胆に描いているようなイメージがありました。どれも難い感じも、覚えられない処理が上手いと思いました。色の組み合わせ、描写の方法について勉強になりました。

2 4/16 授業内容: 抽象絵画の基礎理解

抽象絵画の表現が「抽象化」と「非対象」に分かれると聞いて、現代の記録機器が発達した時代では特に対象物が無い抽象画の表現はもって「絵画」という領域にあるのではないか、と思いました。

3 4/23 授業内容: キュビズムの抽象化

人類史上で一番いい程社会が変化した時代に絵画の表現方法も大きく変わっていきのびやすくなっていったのかと思いました。後期になっていくにつれ次第でデザインの様になっていくため世界中から支持されるのも分かる気がしました。最も形を重視した時期のモチーフの分類がうちは凄いいと思います。ここまですべて非対象絵画のように描けるものかと驚きました。

4 5/7 授業内容: カンディンスキーの抽象化

今の教育では「支持と絵で表現しよう」というお題で課題が出ているにもあんなに好きで選んでいる表現方法も最初に出たのだから重要な人なのだと思います。しかし本当に理解している人が少ないというのは万人が感情をもちあわせている分皮肉だと思いました。

VTRは彼の恋人にスポットが当てられて面白かった。恋心はすごいと思った。

5 5/13 授業内容: マティス、モンドリアン

マティスの作品はごく少数しか知らなかったのび詳しく勉強できてよかった。色と形をデフォルメして強調することで感情を表現するのは終わりの見えない表現法だ、と思う。何れ伝統を壊して独自のスタイルを確立出来る人が同時代に何人もいた事が歴史の妙だ、と思う。

6 5/20 授業内容: アンフォルメル材料・行為性

同時代の作家を数人新しく知れて面白かった。どの作家も「何を描くか」ではなく「どう描くか」に重きを置いているように、当時の自由さや手付けらしさのない領域を模索している雰囲気も伝わってきた。また、作家が作品の持つ雰囲気と似ているのもおもしろいと感じた。

7 5/27 授業内容: 抽象表現主義-1

今回も同時代に同じ地域で活躍した作家を数人知れてよかった。一トーンでデフォルメ制作風景も見かけたのも良かった。ヨーロッパの作家たち程のお洒落さゆえに、明確な自由な作風が伝わってきた。また、日本の(東洋の)美術をとりこんだ作品が多いあたりも何か共通点を感じるのであるのかもしれないと思った。



2 4/16 授業内容: 抽象絵画の基礎理解

抽象という言葉の意味さえよく知らずに抽象画を好んでみていたが、理解できていながら、ここの言葉として学ぶことに喜びを感じた。(国展の、抽象化された具体自由モチーフを見つけられず、答えられなかったが、人の形は見つからなかったが、何となくの印象として新聞紙だと感じた。) 今まで抽象絵画を好むときも、意味を考えずに感覚でみていたので反省した。

3 4/23 授業内容: キュビズムの抽象化

キュビズムについて知っていたことはピカソとブ拉克がそこに属するというくらいで、あったので、もっと深く知れて面白かった。一番おもしろいと思ったのは、ピカソが絵をかき前に「今日はどんな絵か」と言おうと、その後のピカソの作品の解説写を聞いていると、意味よりも形態重視であったりモチーフの抽象化の極みであったりという画面自体のおもしろさにこだわっているからその言葉であり、作り出すというよりも生み出されていたのだとわかった。

4 5/7 授業内容: カンディンスキーの抽象化

自分は高校のときからずっとカンディンスキーが大好きだったのでより詳しく知ることができて嬉しかった。カンディンスキーの目指したものは、月夜の中身を絵で描いていくことは、自分の目指すものでもあり、音楽のような絵を描いていくことも自分の目指すところでもあるのでカンディンスキーを勉強していくことは自分にとってとても重要なことであるので今回の内容は大変興味深く勉強になった。彼の絵は自分の心に直に響くものであり、もっと知識を積んで、いつか本物の見に行きたいと思う。

5 5/14 授業内容: マティス、モンドリアン

マティスのフォービズムのバタついた感じ、色彩の自由さ、デフォルメのしかたに前からかなり憧れていたのび、その内側を知ることができて嬉しかった。日時代自由にマティスの絵が「評判画されたこと、流れをなえていたすごさに判量れる。自分の好みとしては、晩年ではなく、和某月のこの作品+横たお女、ダンスがとても好きで、横たお女は二十何枚も描き変えていたのだと知って少し驚いた。マティスとピカソのお互いを高めていく関係にもすごく憧れをもった。

6 5/21 授業内容: アンフォルメル材料・行為性

モンドリアンの動画をみて、何だか全然良さが理解できなかった。垂直、水平、三原色を極めたのは何故かはわからなかったが、自らの思想でなにより流行に乗っていたというお話をきいてからわかった。アンフォルメルという分野のアーティストは初めて学んだ。楽しそうに思った。フォードリエの作品は第二次大戦後だからと言われていた。このことなのだろうか。自分は、5人の中だとフォードリエが好きだった。児童美術が「好きなのだ」が、盛り盛りの線がありまじらして作っていた。

7 5/28 授業内容: 抽象表現主義-1

アメリカが自国のアートに興味をもていなかった時代があることに関心をもった。自分も現代アートは知らないのび、歴史は浅いことば思っていたのび、日本人みたいだ女と聞いた。今回学んだ「抽象表現主義」の中だとフランケンラーの作品が好きだった。大胆に塗料を流してぼかしたりして、という手法も楽しそうに思っていた。写真にうつるフランケンラーはすごく楽しそうに笑っているのび、印象がよかった。色の配置と使う色の感じも自分は好きだった。

2	4/16	授業内容: 抽象絵画の基礎理解
---	------	-----------------

今までにはやりほしやりと、それと抽象的にしかと伝えられていたが、抽象画について少しずつ理解を深めて行くことが出来るなと思いました。

特に非対象絵画の「モノ」としての考え、という考え方は私の中では新しい物だったので、一つ抽象への見方、考え方が増えました。

3	4/23	授業内容: キュビズムの抽象化
---	------	-----------------

何カ月の絵がどういった経路でキュビズムになって行くのか、ある程度理解しました。上手過ぎて一線をこえていた人が、ああ言う絵を描くのだと思いついていたのだよ。何かにはとまらんとあるなりの原因があるのだよね。

文化は歴史で、美術もまた歴史の影響を大きく、というのを直接受けているなと感じました。

ちなみに分析的なキュビズムの時代の作品が好きです。

4	5/7	授業内容: カンディンスキーの抽象化
---	-----	--------------------

自分の感じたものをそのまま描くことができたことで、それは見れば同じ感情を発生させることが出来るのか、はたまた「私はこれと見てこう感じました」ということを伝えたいから、なのか、気になります。

これまでと今と昔も美しいか、感動の基準が同じなことに少し疑問を感じます。これも不思議です。

カンディンスキーは元学者だ、たかも大き影響を受けていると思えば何が必要で何が必要でないかわからないですね。

5	5/14	授業内容: マティス、モンドリアン
---	------	-------------------

人に本当に与えるキッカケで絵を描くことと始めるのだなあと思いました。テーマがありでもなしでもありはいいと思います。僕は新しいなと感じます。第2回で抽象画をモティベーションと言ったことを憶えましたが、テーマがある絵をモティベーションのみで見るとはまた違う視点です。

札幌を境のかがき平野でマティスから何か学べればと思いつく課題も増えると思います。

非対象

6	5/21	授業内容: アンフォルメルな材料・行為性
---	------	----------------------

マティスの作品がどうしても魅力的に感じました。

手の熱いから生み出される線の生み出した感じと、色と余白のことも素敵です。以前のカンディンスキーやモンドリアンよりも、モノとしての存在感が強いと感じました。

どうせこれに惹かれていく。

7	5/28	授業内容: 抽象表現主義 - 1
---	------	------------------

キュビズムやカンディンスキー、シュールレアリスム、全てが繋がっていて、流入の様にも影響をあたえ、発展をみたり、大変面白いなと感じました。それとモナリ、戦争等の時代背景も深く関連しているので、抽象画も歴史を反映して成り立っていると理解しました。(いまだかきと歴史が絵に反映しては、かき)

私の課題をした時に「これと作品とを発表する」という行為に勇気が足りず、1/2を余計に一欄足してしまっているので、他の2/3を見極めるとここには満足してあって制作したいです。



2 4/16 授業内容: 抽象絵画の基礎理解

抽象のわかりにくさの理由を理解することができました。具象絵画の中にも抽象化(省略など)が用いられているということにあまり意識せず、一般的な目線で見ていたのが、今後は注意深く観賞してみようと思います。津上みゆきさんの作品が、とても好きな帯田さんだったので調べてみようと思いました。

3 4/23 授業内容: キュビズムの抽象化

時代の流れや社会背景などがよく作品に反映されている、ということがわかりました。セザンヌやブラックの性格もよく作品にあらわれている。様々な要素が影響しあっている。一つの作品が色々な意味合いという風に感じました。キュビズムは、正直興味がありませんでしたが、今回の授業で理解することができ、作品の良さも感じられたと思います。

4 5/7 授業内容: カンディンスキーの抽象化

カンディンスキーの作品を見て、特に私が感じたのは、色のあざやかさで、混沌とした作品、さっぱりした作品どちらでも様々な色が用いられている。素敵だなと思いました。カンディンスキーとシュンターの関係は、とてもロマンチックで、人との関わりや精神状況が、作品に与える影響の大きさを改めて感じました。

5 5/14 授業内容: マティス、モンドリアン

マティスの作品は色がとても映えていて、単純化されたフォルムがとても観賞しやすいと思いました。あまりこれまでマティスのような平面的な作品に触れてこなかったのが、今回色々の作品を見て講義を受けて、平面的な近像の作品に好印象が見方が変わり、とても興味を持ちました。おもしろい技法だと思いました。今後は個人的に学習してみたいです。

6 5/21 授業内容: アンフォルメル材料・行為性

モンドリアンの抽象化は、とてもシンプルで、色も限定されているため、とてもおもしろいと思いました。アンフォルメルという作風の中には、様々な作風の作家さんがいて驚きました。見ると目は単純な感じがして、砂を用いてボリュームをつけるものや、筆の力や特殊な行為で描いていることが、とてもおもしろいと思いました。眠らないうちにしよう。

7 5/28 授業内容: 抽象表現主義-1

アメリカン・アートの技法や表現は、とても個性があると思います。フランスやルビク作品の白が目にきれいで、自分を意識した作品を多く描いていくと思いました。サウザーの作品からは、13.13の風景や、あたりの印象をうけて、とても好きな作風だと思いました。どの作家さんにも楽しんで描いていこうという気持ちが、とてもよく見られると思います。

2 4/16 授業内容: 抽象絵画の基礎理解

今まで抽象絵画の見方が変わった回でした。というかほとんどの絵画は抽象化絵画なのだから認識しました。私が抽象画だと思っていたのはほとんどが非対象絵画でした。単純な色の遊びや技を誤行錯誤して見ていておもしろいと思いました。

この授業は本当に知識と今までとはちがった見方が身につくまでとても良い授業だなと感じました。

3 4/23 授業内容: キュビズムの抽象化

キュビズムの流れを見ているとよく人々のやる気になったよなと思いがちテキストとかも読んでいました。

日本ではブラックの方のキュビズムが劇的に認識されているかなと思います。段々と研究していくうちに当人以外にはよくわからないものになってしまったというのが楽しそうだなと思いました。

キュビズムを経てカラーが生まれたというのが一番驚いた部分でした。

4 5/7 授業内容: カンディンスキーの抽象化

あまり考えないで見るものなのかな、とは思った。今の講義を受けただけではまだあまり理解できていない。観念的なものを描いているということだけがとりあえず理解できました。

30代になってから画家を目指すあたりからとても変わった人で、思考や感性もまた変わった人なのかなという印象を受けました。真似できそうもない分、頭の中をのぞいてみたいですね。

5 5/14 授業内容: マティス、モンドリアン

マティスの色彩はとしても鮮やかで、今の人たちに人気なのもずいぶんわかります。派手な配色とよくわからなさは今の流行にのっている。私としてはマティスの色使いは好きです。

形の描き方は独特で個性を感じます。

自分の好きのように描いている感じがしてとても羨ましいです。

モンドリアンの作風は幾学的な感じがする。

6 5/21 授業内容: アンフォルメル材料・行為性

パッと見装飾描きには見えません。

今描いたらあまり評価されないような画風だなと思います。

マチュアな、たまたま受け入れられよう。本人にはわからない部分も多いだろうけど、形にとらわれないで描くのは自由で楽しそうだなと思います。

多様な色で世界や内面を表現した画家たちはとても各自自由だなあという気がします。

7 5/28 授業内容: 抽象表現主義 - 1

ルイスの制作方法が謎だというのがおもしろかったです。

それと、アクションペインティング、カラーフィールドペインティングの画家たちの絵は具象ではないけど描いているかわからないのに、ずいぶん面白かったです。前回のアンフォルメルもそうだったけれど色とタッチだけで綺麗とかおもしろいとか魅せてくれた抽象表現はとてもおもしろいです。



2 4/16 授業内容: 抽象絵画の基礎理解

春休み中の「美術鑑賞入門」の授業で抽象絵画について触れて、ますます抽象絵画への興味がわいていたところだったので、今回の授業も非常にワクワクしています。公募展においての抽象的な絵画は、私も以前から「これは素敵だ!」と思えるものになかなか出会えず、そのことに疑問を持っていました。津上みゆきさんの作品はとてもしっかり好きだと感じたので、他の作品も観てみようと思います。

3 4/23 授業内容: キュビズムの抽象化

ピカソやブリューンの実験的な試みの流れを学ぶことができよかったです。モチーフや対象との様々なやりとりを繰り返して表現を探り、深めていく執念に圧倒されました。セザンヌから続く彼らの動きがあったからこそ、キュビズムが現代まで残り続けたのだと思うと、私たちも常日頃からたくさんドローイングを重ねて自分の表現を見つけていきたい、と創作意欲が止まりません。

4 5/7 授業内容: カンディンスキーの抽象化

私も夕焼け体験の際の内的な感動について問いを持ち、ドローイングを続けていたことがありました。カンディンスキーの絵画や思想がすべて理解できるわけではありませんが、とても共感できる部分がありました。私は前述したドローイングから発展して、現在は「ときめき」をテーマに試行錯誤しています。もっと彼の作品や思いを学び、自分の表現につなげ、探求して描いていきたいです。

5 5/14 授業内容: マティス、モンドリアン

学生など若い人の公募展などをみると、写真をみて描いたいわゆる「写真絵画」が多いな、という印象があり、なぜなのか疑問に思っていました。先生のお話の通り、抽象絵画を学ぶ機会がなかなかないのだと感じます。私は印象派が好きだったので、先生の講義を受けて、20世紀やその前後の画家の作品がとてもしっかり好きになりました。画家の考えや作品に共感できる部分がたくさんあり、毎回この講義を受けられることが本当に楽しみです。

6 5/21 授業内容: アンフォルメル材料・行為性

あまり馴染みのなかった「アンフォルメル」の講義でした。しかし、彼らの描き方や行為は私たちが普段ドローイングを行う際の試みと似た部分もあり、親しみがわきました。偶然性のある色や線や形がとてもしっかりと面白く格好良いので惚れ惚れとしました。特に私はスーラージュの黒に惹かれます。生で観てみたい作品だと感じました。また、マチュエの描く作品も非常に快活さがあり好きだと思いました。

7 5/28 授業内容: 抽象表現主義-1

今回は私が非常に気になっていたカラーフィールドペインティングの授業でした。3名のサムフランシス、ルイス、フランケンサウの作品は画集を手元に置いていつまでも眺めていたい、直接目の前で現物を観たい、と思います。彼らの作品を参考にドローイングをしてみたいと思ったので、次回までの課題で色々試してみるのが楽しみです。好きな色を用いながら、いろんな効果が表われるのを見ようと思います。

2 4/16 授業内容: 抽象絵画の基礎理解

抽象絵画は、見た時に「なんかいいな好きだな。でもどこか」とか、理由がよくわからなくてモヤモヤする」という印象だったが、よくわからなくともいいのかもしれないと思った。抽象化のものよりも、非対象の作品にもっと触れてみたい。なんでも綺麗なものが好みの自分がどう思うのか、思えるのか、ためしてみたいと思う。

3 4/23 授業内容: キュビズムの抽象化

ピカソとセザンヌ以外にあまり抽象表現の始まりの人を知らなかったが、ブラックの総合的キュビズムの作品は、とてもなじみやすく受け入れやすいし、純粋に好きだと思った。ブラックの総合的キュビズムの作品に影響を受けていたであろう画家の絵も昔からよく見ていたからというのもあると思う。そういった、誰に影響を受けたかという系統について詳しく知るともっと楽しめたし、理解が出来るのではないかと期待している。

4 5/7 授業内容: カンディンスキーの抽象化

抽象画家の中で一番親しみを感じたのがカンディンスキーだと思ふ。音楽と絵画の考え、精神面の表現のしかた。ただ目に見えるものを描くのではない、感情を表したような感じが、カンディンスキーの作品がとっても好き!ということではなく、自分の根本 惹かれてるものにとっても近いと思った。課題の「〜風」というのがいつも苦手で描いていてわからなくなってしまうが、今回はいつもより前向きな気持ちで取り組めるような気がする。

5 5/14 授業内容: マティス、モンドリアン

先生が「何を描いているのがよくわからない画家の作品も、理解することが出来れば好きになる、好感が持てる」と言った、その通りになった。予習の読書の時点、ただ作品をぼーっと見ただけの時点ではどこが良いのか、全く見つけることが出来なかったが、マティスの色に対する考え方、デフォーメへの賛否、どういった考えの下でそういった作品が生まれたのかを理解できると抽象絵画はとても身近で、好感の持てるものになった。具象のただ「見ただけ」美しいと思えるものよりも。

6 5/21 授業内容: アンフォルメル材料・行為性

アンフォルメルの線などのシンプルな表現が自由な表現の書道に似ているのは確かだと思ふ。以前に小学生から高校生までの書道の全道大会のアリバイに参加したことがあるが、高校生の部ではととのた字の美しさ以上に、にじみ、かすれ、余白など、私たちが普段触れている字にとっても近く、むくつかの作品にはいつまでも見ていたくなるような感動を覚えた。

7 5/28 授業内容: 抽象表現主義-1

今回登場した作家の中で、サロ・フランシスが一番気に入った。鮮やかな色の組み合わせ、対比、そして余白の白の美しさがとても良いと思った。彼自身東洋・日本の美のとりえ方に惹かれて作品を作っているところが日本人にとっても共感できる美しさを併せているのは特徴的だと思ふ。自分でもフランシスの作品を探して見てみようと思った。



2 4/16 授業内容: 抽象絵画の基礎理解

授業を聞いてると、一般的な抽象絵画への理解がとて浅いことがわかりました。1年前の自分もそうでした。ただ「わけがわからないうの一言で済ませてしまうのではなく、そこから個人で感じていく奥深さに非常に面白味を感じます。そして非対称画こそ作者自身の感情を読み取っていくのが面白いのではないかと思えます。何でこんな絵を描くんだ!という疑問から入っていくのも、新しい絵画の見方として楽しいと思えました。

3 4/23 授業内容: キュビズムの抽象化

非常に有名なピカソだが多くの人が「何が描きたいのだから理解できません」と言う。ピカソ自身何が描きたいかにその意味を表そうとしていたからだ。ピカソもブラスの形の面白さという今までとは違う絵画の描き方へ興味を持っていた。そして新しいことを始めるために多くの研究や実験が必要だったのは作者を見て思う。また、画家が社会の動きに左右されるということ。時代風景を学ぶことも、その作品を知る上で大切なことであると思ひ知らされた。

4 5/7 授業内容: カンディンスキーの抽象化

カンディンスキーの絵画を観しつづけていた時、いくら「気持ちを描いた絵画」であることを念頭に置いて観ても、この人ほどのような考え方を持った人から絵を描くことができるのかと不思議でしつづいてありませんでした。今回の授業をもつてカンディンスキーがその抽象に至るまで多くの下積みをしてきたことを流石に学ぶことができました。沢山のものを描くことで行き着いたのかと納得しました。あと、人はまず対象物を抽象することによって学んでいったというものを「ああそうか」と思いました。

5 5/14 授業内容: マティス、モンドリアン

「ヘタラマの世界を最初に理解した人はすごいと思った。マチスの「帽子をかけた女」、これを初めて見て「いいですね」と感想をもらうことができないと思えない。どこを評価すればいいのかわからない。他人はこの絵を見てどこを素敵だと感じるのか不思議に思った。だが事実その絵は「素敵なもの」を持っている。色の表現が新しく面白いものだと思えるように少しはなれた気がする。そして「ダンス」のように人間を描こうと考えたマチスは面白いと思った。

6 5/21 授業内容: アンフォルメル材料・行為性

スラージの作品目にはとても魅かれた。授業始めに「黒と他の色と一緒に画面に置く」と対比が感じられていた。黒一面のスラージの絵を見ると、誰も踏み込めないような重さのある美しさがある。黒は使い方によっては人に少し動激を与えるのだと思う。今日扱った5人の画家、面白く思った。一見「何でこれ?」と思ってしまう抽象画であるが、その作品には美しいと感じられるものがあるが、抽象画の魅力であると改めて思った。

7 5/28 授業内容: 抽象表現主義-1

「余白は美しいものだ」と思った。今日扱った画家の中ではルイスの絵が一番好きだった。彼の線、そして余白はとて可愛いらしいと思う。真ん中がすっきりと空いている3枚の作品、描かれている面積の方が少ない!と少し驚いたが、この白ものすばらしい。フランスの絵画が東京の街に飾られているように、抽象表現の絵画は嫌味がなくお洒落だと思ふ。空気と混じり合うことができる。そんな風な美しさだ。